

# 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について 考えを深める道徳学習の在り方

— 郷土を愛する心を育む道徳学習を通して —

中村 貴之<sup>1</sup>

価値観が多様化し、予測困難な社会を生き抜く上で、物事の変化に柔軟に対応する力が求められている。道徳科においては、児童が一つの考えに固執せず、多面的・多角的に思考するよう促すことが重要である。本研究では、各教科等と関連させた道徳教育や質的転換を意識した道徳科の授業で、児童に多面的・多角的な思考を促し、自己の生き方について考えを深めさせることで、道徳性を養うことができたかを考察した。

## はじめに

平成27年に小学校学習指導要領の一部が改正され、従来の「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として教育課程上に新たに位置付けることが明記された。道徳の時間が教科化される背景として、道徳教育そのものを忌避しがちな風潮であること、他教科に比べて軽んじられていることなどがある。そこで、道徳の時間を軽視せず、より着実に実施していくために検定教科書を導入し、評価を行うことが求められた。

また、平成27年に中央教育審議会「教育課程企画特別部会 論点整理」（以下、「論点整理」という）において、道徳教育の質的転換が提言された。登場人物の心情理解中心の「読み物道徳」から脱却して「考え、議論する」道徳科へ転換し、自分ならどのように行動・実践するかなど、道徳的諸価値について多面的・多角的に考えさせ、実践へと結び付け、更に習慣化していく指導へと転換することが目指された。

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（以下、「解説道徳編」という）においても、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳性を養うこと」（文部科学省 2015 p.15）が目標として挙げられている。児童が道徳的諸価値についての理解を基に、物事を多面的・多角的に考え、自分事として捉えることができれば、自己の生き方について考えを深めることができる。自己の生き方についての思考の深まりが、道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）を養うことにつながり、道徳的実践へと結び付くのである。

道徳科の授業を着実に実施し、「考え、議論する」道徳科へ転換することにより、道徳教育を充実させることが求められている。

## 研究の目的

本研究は、郷土を題材として児童に多面的・多角的な思考を促し、自己の生き方について考えを深めさせる手立てを実践することで、児童の道徳性を養う。特に、道徳科の授業においては、郷土の「人」に着目して実践した。

## 研究の内容

### 1 研究テーマについて

「解説道徳編」には、「多面的」、「多角的」、「多様」、「様々」という語句が多く使用されており、児童に多面的・多角的な思考を促し、多様な見方・考え方をさせることの必要性が強調されている。ここで挙げられた「多面的・多角的な思考」とは、一つの考えに固執せず、様々な視点から物事を柔軟に捉えていくことである。この見方・考え方は、価値観が多様化し、予測困難な変化をしていく社会を生き抜く上で重要であるといえる。

児童に「多面的・多角的」な思考を促すには、教師からの手立てが必要であり、手立てを講じるに際し、学校や児童の実態を踏まえる必要がある。そこで、所属校である箱根町立仙石原小学校（以下、所属校という）及び所属校児童の実態を把握した。

所属校のある箱根町は、園・小・中一貫教育を行っており、「箱根を愛し（箱育）かしこく（知育）やさしく（徳育）たくましく（体育）」を合言葉に箱根教育を行っている。この合言葉は「箱根を愛し（箱育）」で始まっており、箱根町の各園・各校の教育活動全体を通じて地域教育を推進している。そのため、所属校の道徳教育においても郷土を愛する心を育むことが重点目標の一つとなっている。

そこで、本研究では、「内容項目C：伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の「郷土を愛する心を育む道徳学習」について研究を進めることにした。

1 箱根町立仙石原小学校

研究分野（今日的な教育課題研究 道徳教育の  
充実に関する研究）

## 2 内容項目に対する児童の実態

### (1) 道徳科で培う郷土愛とは

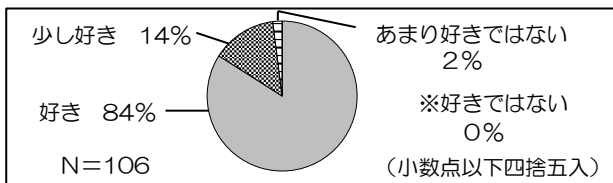
郷土には様々な「もの」や「こと(出来事)」、「人」が存在しており、それらのよさの多面的・多角的な理解が、郷土を愛することの基盤となると捉えた。

道徳科において郷土を愛する心を育むとは、児童に郷土のよさを理解させるだけではなく、「郷土の一員として何ができるのか」という自己の生き方についても考えさせることである。児童が自分事として郷土に主体的に関わる態度を育成することが、道徳科で郷土を愛する心を育むことの意義だと考えた。

### (2) 児童の実態把握

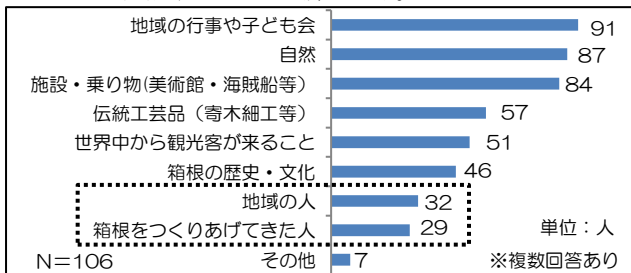
児童の郷土に対する意識を把握するため、平成 28 年 6 月上旬に所属校の全校児童(106 名)を対象にアンケート調査を行った。

設問「箱根町のことが好きですか」では、全校児童の 98%が「好き」、「少し好き」と回答した(第 1 図)。



第 1 図 箱根町のことが好きですか

また、設問「箱根町のどんなところが好きですか」では、「地域の行事や子ども会」と回答した児童が最も多く、次いで「自然」、「施設・乗り物」であった。一方、「地域の人」や「箱根をつくりあげてきた人」など、「人」に関する項目を好きと回答した児童が少ないという結果になった(第 2 図)。



第 2 図 箱根町のどんなところが好きですか

## 3 研究の仮説

アンケート結果から、所属校の児童は郷土を好意的に捉えてはいるが、郷土の「人」に対して関心が低いことが明らかになった。そこで、次の仮説を立てた。

郷土のよさについて、先人の努力や、現在、郷土のために働く人々の思いも含めて、多面的・多角的に考えることで、郷土のよさに対する見方・考え方を広げたり深めたりすることができ、今まで以上に郷土を愛する心を育める。

## 4 研究の手立て

児童に物事を多面的・多角的に考える力を付け、郷土を愛する心を育むために、二つの大きな枠組による

検証を行った。一つは「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」であり、もう一つは質的転換を意識した「道徳科の授業(検証授業)」である。

(1) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育  
ア 各教科等との関連(年間計画の見直し)

「解説道徳編」は、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実が、道徳科の指導の充実につながる」(文部科学省 2015 p.86)としている。高学年においては、35 時間の授業時数に対し内容項目は 22 項目あるため、道徳科の授業で郷土を愛する心を育む内容を扱う時間は限られている。そこで、道徳科の指導をより充実させるための手立てとして、各教科等と関連させて計画的、発展的な指導ができるように、「郷土を愛する心を育む教育活動 年間計画」を作成し、実践した(第 1 表)。

イ 各教科等での取組の例

算数科「対称な形」の取組では、単元の導入で次のような図形を提示した(第 3 図)。



第 3 図 寄木模様



第 4 図 寄木細工

提示した第 3 図から平行四辺形、合同などの図形学習の既習事項を見付けさせ、その内容を確認した。確認後、提示した図形が寄木細工の模様であることを児童に伝えた(第 4 図)。寄木細工が箱根で人気の土産になっている理由を考えさせることで、単元を通して「寄木細工の美しさの秘密を探ろう」という目標を児童と共に立て、線対称、点対称の学習を進めた。

このように、各教科等で学習する内容に身近な地域素材を取り入れることで、改めて地域にある「もの」、「こと(出来事)」、「人」について見直させて、そのよさを感じさせることを目指した。

(2) 道徳科の授業(検証授業)

道徳科の質の高い多様な指導方法の一つに「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」(道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議 2016 p. 6)が挙げられている。そこで、読み物教材を活用し、登場人物に自分を投影して、判断や心情を考えさせること、いわゆる自我関与を促す工夫により、道徳的価値の理解を深めていくことにした。

道徳科の授業における手立ては次のとおりである。

ア 自作教材の作成

平成 30 年度より検定教科書が導入されるが、郷土の特色がいかせる教材も重要であり、各地域に根ざした地域教材の開発や活用にも努めることが望ましいとされている(文部科学省 2015)。そこで、箱根の「人」を題材にした自作教材を作成することにした。

(ア) 題材の選定

仙石原に住む AK 氏に着目し、題材とした。AK 氏

第1表 郷土を愛する心を育む教育活動 年間計画(6年生) ※一部省略あり

	4月	7月	9月	12月	1月	3月
国語	「箱根観光美化作文」【もの・こと】 箱根町のよいところを考え、作文でアピールする。		「たのしみは」(短歌)【もの・こと】 観光美化ポスターを見ながら「おすすめは」で書き始める短歌をつくり、ポスターと一緒に掲示する。			
社会	「鱈丸遺跡」【こと】 グラウンドが遺跡だったという事実を知り、興味を高める。	「箱根開所」【こと・もの】 郷土資料館職員を招き、箱根開所を見学し、開所の夜割や歴史的背景を知る。	「戦没者忠霊碑」【こと・人】 忠霊碑から、仙石原にも戦争に関わった人がいることを知る。(戦争体験者：KMさん)	「わたしたちの暮らしと政治」【もの】 町民の願いを公共施設等に生かしているということを知る。		
算数	「対称な形」【もの】 導入で香木細工を取り上げ、「美しさの秘密を探ろう」という目標をもち、学習に取り組む。		4(1)イ に例示あり			
家庭				「公時汁を作ろう」【もの・人】 AKさんを講師に招いて、仙石原の公時山をイメージした公時汁を調理する。		
体育	「よさこいソーラン」【人・こと】 AKさんを講師に招いて、運動会の表現「よさこいソーラン」の踊りを練習する。		「箱根体操」【もの】 箱根八里の音楽に合わせた町民体操(箱根体操)について学習する。			
道徳				「この町のよさは?」【人】(自作資料使用) AKさんをゲストティーチャーに招き、地域の人の思いや取組に焦点を当てて学習する。		
総合	「わらじ作り」【もの・こと】 郷土資料館の職員を講師に招き、わらじを作る。	「箱根の年中行事」【こと】 郷土資料館の職員を招き、箱根の年中行事の種類や歴史的背景を知る。	「砂防教室」【もの】 仙石原(卯の花沢)にある、砂防ダムを見学する。※社会「税金」と関連させる。	「須永伝蔵と耕牧舎」【人】 仙石原にあった耕牧舎と須永伝蔵の郷土への思いについて知る。		
	「わらじ歩き」【こと】 自分で作ったわらじを履き、箱根旧街道(石畳)を歩く。		「観光」【人】 各観光施設で働く人や地域の人がどんなことを意識して取り組んでいるのか等を調査し、発表する。※「おもてなしの心」の取組と関連させる。			

は、昨年度まで所属校の学校評議員を務めており、運動会表現種目「よさこいソーラン」の指導で児童と関わるなど、児童には身近な存在である。一方、高齢者への振り込め詐欺などの注意喚起や子育て支援、箱根ソーラン踊りを伝統芸能にするための普及活動、郷土料理としての公時汁の考案と製品化など、児童が把握していない活動も行っている。AK氏は、児童が意識しないと気付かないような、地域(仙石原)のための活動に積極的に取り組んでいるのである。

AK氏を題材にすることで、児童に「今までは気付かなかったけれど、普段関わっていた身近な地域の人も、地域のための活動をしているのではないか」という新たな視点を持たせることができると考えた。

(イ) 教材作成の留意点

郷土を題材にした自作教材は、郷土の「もの」や「出来事」、「人」などが登場し、郷土らしさが十分に表れていることが望ましい。反面、児童にとって身近な地域を題材にする場合には、偏見を与えたり、特定の人物や団体に利益が生じたりしないように配慮する必要がある。本時で扱う自作教材は、AK氏に取材したことを基に、架空の物語として作成した(「AK氏」を「さと子さん」という仮名で登場させた)。

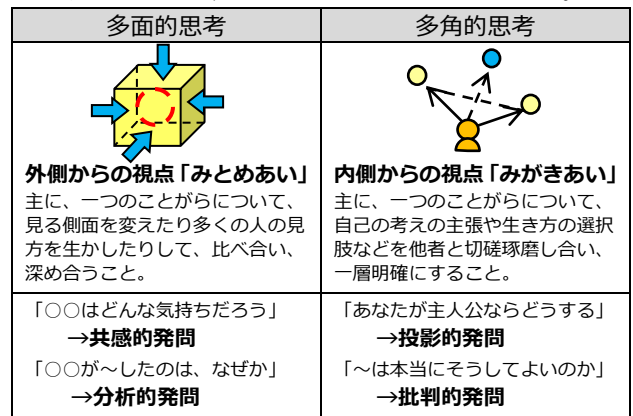
また、文章が短くて簡潔であることや、教材を読んだ後に児童に問題意識が生まれるものであることにも留意して、自作教材を作成した。

イ 発問の工夫

東京学芸大学教授の永田(2016)は、「解説道徳編」に見られる「多面的・多角的」は「・(中黒)」で表記されており、両者の併置によって全体として一つの意味を持つものであるため、分けて論じるのではなく、一体的なものとして解釈することが望ましいと述べている。一方、多面的と多角的を対比させて考えることで、児童の思考を広げる手掛かりとなるとも述べており、二つの思考を整理した図を提案している(第5図)。

本時では、共感的発問と批判的発問を活用し、児童

の思考を広げたり、深めたりしていくことにした。



第5図 多面的思考と多角的思考の整理案 (永田 2016 pp. 71 - 73)

ウ 道徳的実践へつなげる工夫

「論点整理」では、道徳科の授業の質的転換の一つとして、「自分ならどのように行動・実践するかを考えさせ(中略)実践へと結び付け、更に習慣化していく指導へと転換すること」(中央教育審議会教育課程企画特別部会 2015 pp. 45 - 46)が重要であるとしている。

そこで、本時では、ゲストティーチャーとして招いたAK氏の「みんなも地域の一員」という思いを直接児童に伝える機会を設けた。AK氏の話の後、児童に地域のために取り組んでみたいと思う行為を短冊に書かせ、黒板に貼り出させることを計画した。短冊の活用により、多様な考えがあることに気付かせ、考えを広げ、道徳的実践への意識付けを目指した。

5 検証授業について

(1) 検証授業の概要

【実施日】平成28年10月11日(火)

【対象】箱根町立仙石原小学校 第6学年1組

【主題名】郷土を愛する心

【教材名】この町のよさは?(自作教材)

【ねらい】郷土に生きる人々の郷土への思いや活動に

ついて知ること、自らも郷土の一員として、郷土をよりよくしていこうという道徳的実践意欲と態度を育てる。

【教材のあらすじ】

主人公であるぼくは、学校で「自分が住んでいる町のよさ」について考えるが、何かを忘れていたような、もやもやした思いを抱く。その日の下校中、近所に住むさと子さんと会い、さと子さんが地域のために様々な活動をしていることを知り、ぼくのもやもやが晴れる。そして、「ぼくたちの町のよいところは…」で物語が終わる。

(2) 検証授業の実際の様子

ア 教材を読んで話し合う

教師の教材範読後、簡単な状況確認をし、登場人物の「ぼく」の気持ちを共感的発問により考えさせた。

T : 「ぼくたちの町のよいところは…。」の「…」には、どのような言葉が当てはまりますか？

C 1 : さと子さんがやっている「地域みんなの役にたつ活動があること」だと思います。この町には困っている人たちがいるからです。

C 2 : ぼくたちの町のよいところは「地域の人たちの思いやり」です。理由は、さと子さんが、町にいる高齢者、一軒一軒の家に行って話を聞いていたからです。

C 3 : C 2さんと似ていて「地域の人、一人ひとりのことを思いやり、みんなが暮らしやすい町にしているところ」だと思います。理由は、C 2さんも言っていたのですが、さと子さんが一軒一軒行って、面倒くさいことを自分一人でみんなのためにやっていることがすごいと思ったからです。

T : C 4さんは何て書いた？

C 4 : えっと、「さと子さんがいること。」

T : 「さと子さんがいること」と書いた人は他にもいるかな？(児童数名が挙手)

どの児童も「人」に注目して考えることができていた。しかし、C 4の発言のように、地域のよさを「地域の人たち」ではなく、「さと子さん」に限定している児童も複数いた。そこで、批判的発問をすることにより児童の思考を揺さぶった。

T : さと子さんがいなかったら、「ぼくたちの町のよいところはない」ということですか？

C 5 : いや、そういう訳じゃないけれど…。美術館やお祭りがあるって資料(教材)に書いてあるし。

C 6 : 地域の行事とか…。

T : 行事や他のものとかによいところがあるってこと？では、人としては、さと子さんがいなかったら、いい人はいない？

C 7 : 他の人にも優しいところがあるんだけど、この資料(教材)では、さと子さんが主役っていうか…この資料(教材)では、さと子さんの話をしてだけで、他の人もいる(児童複数が同意)。

T : 何人かが「この資料(教材)では」と言っているけれど、では、みんなが住んでいる仙石原には、さと子さんみたいな人はいるかな？

C 7の「この資料(教材)では」という発言に複数の児童が同意していたことをきっかけにして、「仙石原には、さと子さんみたいな人はいるかな」と発問し、

児童同士で相談する時間を設けた。児童が教材について考えていたことを基にして、自分たちの生活について考えるという、児童の思考のつながりを重視した。

イ ゲストティーチャー(AK氏)の話聞く

さと子さんは、仙石原に住んでいる人をモデルにしていることを伝え、「誰だろう」、「知りたい」という児童の興味・関心を高めた上でAK氏を紹介した。

AK氏が話したことは、「活動の動機」、「活動の具体」、「人とのつながり」、「地域への思い」の四点である。身近な人の意外な一面を知る話であったため、児童は興味を持って聞くことができた。

ウ 道徳的実践意欲を高める

AK氏の話の後、児童から「地域の人にお世話になっているから、恩返しをしたい」という感想が出た。

児童の感想とAK氏の思いを踏まえ「みんなは、地域のためにどんなことができますか」と発問し、児童に地域のために取り組んでみたい行為を短冊に書かせた。

次の記述は、児童が記入した一例である。

- ・自分から明るい声であいさつをする
- ・ごみを拾う
- ・ごみを捨てない
- ・困っている人がいたら、助ける
- ・ボランティアをしている人のお手伝い
- ・世界中の人が笑顔でいられるようにする
- ・箱根の伝統のお祭りや寄木細工などの箱根の文化を自分たちの力でもっとつないでいき、世界中の人たちに知ってもらおう

児童が黒板に掲示した短冊を互いに見合うことにより、「Aさんのは面白い」、「Bさんの内容は意外だね」など、交流する様子が見られ、児童は多様な考えを知り、そのよさに気づき、考えを広げていた。

(3) 評価

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(2016)において挙げられている、道徳科の評価の工夫を参考にし、本時では、「ポートフォリオ評価」と「エピソード評価」を行った(第2表)。

第2表 評価の種類と方法

ポートフォリオ評価	エピソード評価
児童の授業中の発言や行動を観察、ワークシートの内容を見て評価する。	児童が生活する様々な場面において、道徳的価値に関連する行動(エピソード)を記録し、評価する。

いずれの評価も個人内評価であり、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ますものにすることを重視した。本時の具体的な評価の視点は、次のとおりである。

【授業内の評価(ポートフォリオ評価)】

- ◎多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
- ◎様々な立場から考えたり、議論したりすることで多様な考えのよさに気付いているか。
- ◎道徳的価値の理解を基に、自分自身のよさや友達のよさに気付いているか。
- ◎自己の生き方について考えを深め、これからの生き

方につなげていこうとしているか。

### 【授業後の評価(エピソード評価)】

- ◎地域の人の郷土への思いや活動について調べたり、取材したり、紹介したりしているか。
  - ◎郷土の一員として、郷土をよりよくしていくために自分にできることを考えて取り組んでいるか。
- ア ポートフォリオ評価(ワークシートの記述から)

C児は、AK氏が話をする表情や話の内容に注目した記述をしている。「地域のために活動することは、楽しいことなんだ」と感じ、自分の考えを深めていることが分かる(第6図)。

いろいろ書いてあったのですが、AK氏は、自分が出ている活動が、もうやだ、なだ、思ったことはなかったのかもしれない、瞬間に思いました。しかし、AK氏の授業の時の説明は、もうやだと思っていながら、感じて、なだかという、説明している時にここになだか言、さういふから、そのAK氏、のここが、活動は楽しいと思、うように感じました。今日の授業は楽しかったです。

第6図 C児ワークシート

D児は、友達の発言をきっかけとした記述をしている。「町のよいところに地域の人たちもいる」ことに気付き、考えを深めていることが分かる(第7図)。

今日の授業で、町のよいところは、産貝市場や、風景でもあり、ま、Sさんが言った産貝で、「町のよいところは、場所も、の、と、意見で、よく、産貝に、思、ました町のよいところは、近くに行、るのか、AK氏が、かいた人達、もありました、町のよいところは、産貝市場や、町の人達、と、わ、かりました。

第7図 D児ワークシート

E児は短冊に「ごみを捨てないようにする」という、一見すると消極的な行為のように感じる言葉を書いた。「Eさんのは、これでいいの?」という、児童の発言もあったが、その発言に対し、別の児童が「いいんだよ。Eさんは、いつも買った物のごみをあちこちに捨てていたんだから、進歩だよ」と言葉を返し、そのやり取りからE児が笑顔になる場面が見られた。

E児のワークシートは、道徳的価値の理解を基に、理想的な行為を記述するのではなく、「今の自分にできること」をしっかりと見つめた記述であり、自分事として考えを深めていることが分かる(第8図)。

授業をでた一人だけ、たくさんのことか、ま、のが、す、ご、い、と、思、た、ぼ、く、だ、た、分、人、で、そ、ん、を、ま、り、い、な、こ、と、は、で、き、な、い、け、い、な、り、さ、や、ち、と、し、た、ご、み、ま、う、い、く、ら、い、だ、た、分、ご、き、る、か、分、と、だ、か、も、や、り、た、ら、。

第8図 E児ワークシート

イ エピソード評価(短冊、児童との会話から)

道徳科の授業で行為を記入した短冊は、教室に掲示し、二週間ごとに振り返りを行った。個人内評価として、児童に行為ができていれば記入した文章の横にシールを貼らせた。振り返りの様子を基に、教師が児童に声を掛け、具体的なエピソードを認め、励ました。振り返りを継続的に行うことで地域への意識を持続さ

せるとともに、児童の変容を見取り、評価につなげた。

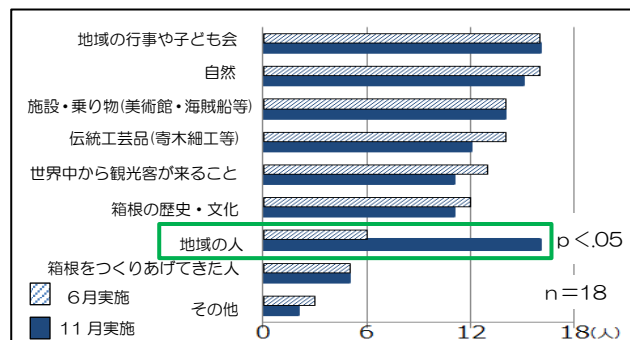
後日、AK氏から「Fさんが、よく声をかけてくれるようになった」、「Gさんが、『他にどんなことをやっているのかを知りたいから教えてほしい』と聞きに来た」という話を聞くことができ、指導にいかした。

## 6 児童の変容と考察

### (1) 児童の変容

児童の郷土に対する意識がどのように変容したかを知らため、平成28年11月下旬に所属校第6学年(18名)を対象にアンケート調査を行った。6月に実施したアンケート調査と同じ質問内容とし、比較することで児童の変容を見た。

設問「箱根町のどんなところが好きですか」では、「地域の人」と回答した児童が増えており、誤差の範囲内かを調べるt検定においても有意差が見られた(第9図)。



第9図 箱根町のどんなところが好きですか

設問「4月の頃の自分と比べて『より好きになった』と思うものは」では、「自然」と回答した児童が最も多く、次いで「地域の人」、「箱根の歴史・文化」であった。その理由は、次のとおりである(第3表)。

第3表 より好きになった項目と理由(一例)

項目	理由
自然	・国語の授業で意見文を書き、改めて箱根の自然を守らなければいけないと思った。
歴史文化	・総合の時間でわらじを作って箱根旧街道を歩いたり、関所を見学したりして、箱根ってとてもいい所だなと思った。もっと箱根の歴史を知りたい。
伝統工芸品	・算数で勉強した寄木細工が気になって、動画で調べたらきれいな模様があって、より好きになった。
地域	・道徳でAK氏の話聞いて、またちょっと箱根のことが好きになったし、ごみを捨てなくなった。

設問「地域の人、箱根町や箱根に住む人々のために行っている活動をたくさん知っている」では、「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した児童が、6月では6%だったが、11月では83%に増加した。また、地域を具体的に活動内容を記述できる児童も増加した(第4表)。

第4表 児童の知っている地域の人々の活動(一例)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ拾い</li> <li>・あいさつ運動</li> <li>・子ども110番の家</li> <li>・祭や地域の行事の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域パトロール</li> <li>・登下校の見守り</li> <li>・子育て支援</li> <li>・ざっこの会(土曜課外活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち葉の掃除</li> <li>・おれおれ詐欺防止</li> <li>・観光客への道案内</li> </ul>
---	--	---

## (2) 考察

### ア 各教科等との関連(年間計画の見直し)

アンケート調査の結果、「地域の人」以外の有意差は見られなかったが(第9図)、児童の記述内容(第3表)から、各教科等で地域素材を取り入れて学習を進めて行くことにより、郷土のよさに対する見方・考え方が広がったり、深まったりしていることが分かる。

また、「もっと箱根の歴史を知りたい」、「寄木細工を動画で調べた」などの記述は、児童の郷土に対する興味・関心が高まっていることの表れであり、郷土に主体的に関わっていこうとする態度を育成することができ、郷土を愛する心が育まれたと考える。

### イ 道徳科の授業

アンケート調査の結果「地域の人」をより好きになった児童が増加しており、その理由には、多数の児童が道徳科の授業で取り上げたAK氏とのふれあいを挙げていた。児童にとって身近な人であるAK氏の新たな一面を知ったり、AK氏から直接話を聞いたりしたことにより、今まで気付かなかった地域の人々の活動や思いを理解し、「地域の一員」として、自己の生き方について考えを深めたことが分かる。

また、授業後にもエピソード評価を通じて継続的に振り返りを行ったことが、地域の人々の活動に注目しながら生活させることに有効であったと考える。

## 研究のまとめ

### 1 研究の成果

郷土のよさを多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める手立てを実践した。実践を通じて児童に新たな気付きや学びを生み、郷土のよさに対する見方・考え方を広げたり深めたりすることができたと考える。本研究では「郷土を愛する心を育む道徳学習」をサブテーマとし、二つの枠組において手立てを実践することで道徳性を養うことを目指したが、この手立てはどの内容項目においても有効である。

第一の枠組の手立ては「各教科等と関連させながら学習を展開していくこと」である。各校における道徳教育の重点目標を踏まえ、学校の教育活動全体を教科横断的な視野を持って計画的、発展的に指導すること、いわゆるカリキュラム・マネジメントの視点が指導の効果を高めるのに不可欠であることが分かった。

第二の枠組の手立ては「内容項目と児童の実態を把握した上で、教材や発問を吟味して授業を行うこと」である。教師が「内容項目・教材・発問」を創意工夫して指導と評価を行う、質的転換を意識した授業により、児童の道徳性を養うことができると分かった。

### 2 課題と今後の展望

検証授業では、道徳的实践に結び付くことを期待し、

短冊に行為を書かせる活動を行った。その際、すぐに行為を思い付いた児童がいる一方で、考えてはいるが、行為をしている自分の姿が想像できない児童もいた。

道徳的实践とは、内面的資質の向上の結果として表れてくるものである。しかし、検証授業では、教師が道徳的实践へとつなげようとする意識が強く、児童の内面的資質の向上に個人差があるにもかかわらず、一律に行為を考えさせてしまった。また、考えさせた行為は「いつ・どこで・どんな行為」という、児童にとって難易度の高いものであった。

道徳教育の質的転換の中で、道徳的实践に結び付けることが求められているが、内面的資質の向上なしに行為を期待することはできない。内面的資質の向上を図るためには、再度、教師が児童に自分事として自覚、自省を促すことが重要であるといえる。

## おわりに

本研究を実践して感じたのは、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の中でも、道徳科の授業が果たす役割が大きいということである。各教科等と関連させながら教科横断的に学習することは、児童の道徳性を養う上で有効であった。しかし、その中でも郷土の「人」については、道徳科の授業によって児童の学びがより深まっていた。やはり、道徳科の授業は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の「要」であり、「補充、深化、統合」の重要な役割を担っているのである。

ゆえに、道徳科の授業の質を上げていくことが重要であり、一単位時間の授業を大切にしていかなければならない。カリキュラム・マネジメントの視点を持ち、道徳科の授業を充実させることが、道徳教育を充実させることにつながっていくと確信している。

## 引用文献

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議

2016「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)」[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/08/15/1375482\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/08/15/1375482_2.pdf)(2016年9月取得)

中央教育審議会教育課程企画特別部会 2015 「教育課程企画特別部会 論点整理」[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf)(2016年4月取得)

文部科学省 2015『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633\\_6.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633_6.pdf)(2016年5月取得)

永田繁雄 2016「『多面的・多角的』思考の原点を確認する」(明治図書『道徳教育』10月号)